

6 優秀研究業績全国水産試験場長会会長賞表彰

(1) 審査委員長経過報告・講評

全国水産試験場長会副会長

(沖縄県水産海洋技術センター所長) 上田 美加代

審査委員長の上田です。それでは、審査委員会の経過、及び結果についてご報告いたします。10月4日リモートにより、審査委員会を開催いたしました。まず、3つのブロックから推薦のあった表彰候補について、各研究担当者から研究業績の説明を行っていただき、全国のブロック幹事から選出された審査委員長と5名の審査委員により審査を行いました。

当日のプレゼンテーション、ブロックから提出された推薦調書、事前の質疑応答、及び表彰規定に表彰の対象として定められている、「地域の水産業の振興に貢献するか」、「試験研究の成果が今後の水産試験研究の発展に寄与すると認められるかどうか」、これららを評価の視点として審査を行いました。

その結果、いずれも令和6年度全国水産試験場長会 会長賞を受けるにふさわしい業績であると判断しました。

まず、海面部会 北海道ブロックから推薦されました、北海道立総合研究機構稚内水産試験場の前田高志（まえだ たかし）さん、函館水産試験場の秋野秀樹（あきの ひでき）さんのお二人による「温暖化に対応するコンブ養殖技術の改良と普及 ―コンブ成熟誘導技術の開発―」です。

北海道におけるコンブ養殖業で問題となっていた、高水温等の海洋環境変動に伴う母藻成熟の遅れを解決するために「成熟誘導技術」を開発し、技術が既に生産現場に普及され、品質向上や収量増加を実現し、養殖コンブ生産の安定化につながっていることから、地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められました。

次に、海面部会 北部日本海ブロックから推薦されました、富山県水産研究所の福西悠一（ふくにし ゆういち）さんを代表とするアカムツ種苗生産技術開発研究チームによる「アカムツ種苗生産技術の開発に関する研究」です。

平成25年に世界で初めてアカムツの稚魚生産に成功し、成長の遅さやオスに偏る性比バランスなどの課題についても、飼育水温の制御や大豆イソフラボン展着飼料による改善策を見出し、平成28年から令和4年までに約22万尾の種苗を富山湾に放流しており、本種の資源増大に資することが期待されることなどから、地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められました。

最後に、内水面部会 東海北陸ブロックから推薦されました、愛知県水産試験場 内水面漁業研究所（現所属 漁業生産研究所）の稲葉 博之（いなば ひろゆき）さんによる「食味に優れた大型雌ウナギ生産技術の確立」です。

天然ウナギの稚魚の漁獲量が減少している中で、大豆イソフラボンによる雌化に着想

を得て、食味や生産性に優れた雌ウナギ生産技術を確立し、大豆イソフラボン飼料の製品化を達成し、全国各地で本技術の導入が進められていることから、地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められました。

いずれも素晴らしい研究であり、地域のため奮闘し、大きな貢献をされました受賞者の皆様方に改めて敬意を表したいと思います。本日はまことにありがとうございます。

以上で講評を終わります。

令和6年度全国水産試験場長会会長賞表彰審査委員会審査結果報告書
(令和6年10月17日付)

全国水産試験場長会
会長 大村 英二 様

全国水産試験場長会
優秀研究業績表彰審査委員会
審査委員長 上田 美加代

令和6年度全国水産試験場長会会長賞表彰候補に推薦された3業績について、下記のとおり審査委員会を開催して審査した結果を報告します。

記

開催日時：令和6年10月4日(金) 14:00～15:30

開催方法：リモートによる各研究担当者からの推薦業績の説明と審査

出席者：

審査委員

委員長 上田 美加代（九州・山口ブロック：沖縄県水産海洋技術センター 所長）
委員 平田 豊彦（東北ブロック：福島県水産海洋研究センター 所長）
石黒 宏昭（東海ブロック：千葉県水産総合研究センター センター長）
野村 太郎（西部日本海ブロック：山口県水産研究センター 所長）
田村 直明（東北・北海道ブロック：青森県産業技術センター内水面研究所 所長）
荒井 一哉（関東・甲信越ブロック：長野県水産試験場 場長）

推薦ブロック幹事

海面 星野 昇（北海道ブロック：北海道立総合研究機構水産研究本部 本部長）
海面 阿部 信彦（北部日本海ブロック：山形県水産研究所 所長）
内水面 後藤 功一（東海・北陸ブロック：岐阜県水産研究所 所長）

説明者

海面 前田 高志（北海道ブロック：北海道立総合研究機構 稚内水産試験場 調査研究部 主査）
秋野 秀樹（北海道ブロック：北海道立総合研究機構 函館水産試験場 調査研究部
研究主幹）
海面 福西 悠一（北部日本海ブロック：富山県水産研究所 栽培・深層水課 主任研究員）
内水面 稲葉 博之（東海・北陸ブロック：愛知県水産試験場 内水面漁業研究所
（現所属：漁業生産研究所） 主任）

オブザーバー

会長 大村 英二（宮崎県水産試験場 所長）
事務局 神柱 武志（同 経営流通部長）
特別幹事 中野 卓（東京都島しょ農林水産総合センター 所長）
幹事県等 鳥居 正也（岡山県農林水産総合センター 水産研究所 所長）
鯉江 秀亮（愛知県水産試験場 内水面漁業研究所 所長）
田口 智也（宮崎県水産試験場内水面支場 支場長）

審査結果：海面部会 2 ブロックと内水面部会 1 ブロックから推薦のあった以下の 3 業績について、各研究担当者からそれぞれ説明を受けて審査した結果、いずれも令和 6 年度全国水産試験場長会会長賞表彰を受けるにふさわしい業績と判断されました。

(1) 海面部会 北海道ブロック

「温暖化に対応するコンブ養殖技術の改良と普及」

ーコンブ成熟誘導技術の開発ー

北海道立総合研究機構 稚内水産試験場・調査研究部

主査 前田 高志

北海道立総合研究機構 函館水産試験場・調査研究部

研究主幹 秋野 秀樹

選考理由：

北海道におけるコンブ養殖業で問題となっていた、高水温等の海洋環境変動に伴う母藻成熟の遅れを解決するために「成熟誘導技術」を開発し、事業規模での実証試験を通じて、生産現場への技術の普及が急速に進んでいることは高く評価できる。また、確実に母藻を確保できるようになり、早期の種苗生産と養殖開始により品質向上や収量増加を実現し、養殖コンブ生産の安定化につながっていることから、気候変動への対応を図った試験研究の手本となる事例であり、地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められる。

(2) 海面部会 北部日本海ブロック

「アカムツ種苗生産技術の開発に関する研究」

富山県水産研究所 栽培・深層水課 アカムツ種苗生産技術開発研究チーム

主任研究員 福西 悠一

選考理由：

平成 25 年に世界で初めてアカムツの稚魚生産に成功し、初期生態の解明や増殖研究を大きく発展させると共に、課題となっていた成長の遅さとオスに偏る性比バランスについても、飼育水温の制御や大豆イソフラボン展着飼料による改善策を見出すなど、他魚種の種苗生産技術開発でも参考になる知見が多く蓄積されている。また、平成 28 年から令和 4 年までに約 22 万尾の種苗を富山湾に放流した結果、水揚げされる放流魚の尾数は年々増加傾向にあり、本種の資源増大に資することが期待されることなどから、地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められる。

(3) 内水面部会 東海・北陸ブロック

「食味に優れた大型雌ウナギ生産技術の確立」

愛知県水産試験場 内水面漁業研究所（現所属 漁業生産研究所）

主任 稲葉 博之

選考理由：

ウナギの養殖用種苗に用いられる天然ウナギの稚魚の漁獲量が減少し、資源の有効利用が求められている中で、大豆イソフラボンによる雌化に着想を得て、ウナギの雌化技術の開発を行い、民間企業と大豆イソフラボン飼料の製品化を達成したことは高く評価できる。また、雌ウナギは食味にすぐれ、生産性も向上する等、ウナギ養殖業者の収益向上に寄与する効果が得られたことで、全国各地で本技術の導入が進められている。その結果、雌ウナギの新規市場の開拓と共に、ウナギ資源の有効利用につながることが期待されることから、地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められる。

(2) 副賞贈呈・挨拶

地域水産試験研究等促進奨励会

(一般社団法人 全国水産技術協会 会長) 川口 恭一

皆さん、こんにちは。日頃大変の水産試験場の皆さんと連携いただきお世話になっております。この機会に御礼申し上げます。配布されている資料5-2に 記載しておりますが、平成28年に水産試験場の日頃の活動に敬意を表して、これを大いに促進奨励しなくてはいけないと想いから私共の方で制度をつくりました。当時としては現金というわけにはいかないので、図書券ということでお話ししましたが、場長会会長賞を受賞した方に賞を出そうということにしました。現在は東京にあります水産関係の団体、技術系の団体ですけど、13の団体が奨励会を構成しており、言い出しっぺの私が会長ということで、今日ここにお邪魔しているというわけでございます。今年で28年度から9年間続けて激励をして参りましたが、今後とも続けていく所存でございますので、大いに皆さんお互いに切磋琢磨していただいて、地域の水産業のために活動してください。ということをお願いし、趣旨の説明と御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

資料 5 - 2

全国水産試験場長会の皆様

地域水産業等を対象に業務を展開する全国的な水産関係団体は、水産試験場等の試験研究成果等を基礎とし、これら機関と連携して業務展開を図ってきました。こうしたなか、気候変動や国際情勢の変化を背景に水産物の需給関係が厳しさを増す一方、水産業におけるカーボンニュートラルの実現やDX化の推進、さらには水産以外の分野とも連携した海業の展開が期待されており、両者の緊密かつ円滑な連携協力が一層重要となっております。

このため、令和2年度に全国的な水産関係団体により「地域水産試験研究等促進奨励会」を発足させ、それまで一般社団法人全国水産技術協会が行ってきた「優秀研究業績表彰」に対する事業を継承発展させ実施してまいりました。

今年度も下表に示す水産関係団体により、引き続き優秀研究業績表彰に対する副賞贈呈の事業を実施することといたしました(参考:優秀研究業績表彰副賞＝図書券10万円/件×3件)。

場長会の皆様方には、このような趣旨及び経過をご理解賜り、引き続き一層の連携協力を頂きますようよろしくお願い申し上げます。

令和6年11月7日

地域水産試験研究等促進奨励会代表 川口 恭一

地域水産試験研究等促進奨励会の構成団体

団 体 名	ホームページ URL
公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構	https://www.umitonagisa.or.jp/
公益財団法人 海外漁業協力財団	https://www.ofcf.or.jp/
一般社団法人 水産土木建設技術センター	https://www.fiddec.or.jp/
一般社団法人 漁業情報サービスセンター	https://www.jafic.or.jp
全国漁業協同組合連合会	https://www.zengyoren.or.jp/
一般社団法人 全国水産技術協会	https://www.jfsta.or.jp
一般財団法人 漁港漁場漁村総合研究所	https://www.jifc.or.jp/
全国内水面漁業協同組合連合会	https://www.naisuimen.or.jp
公益社団法人 全国豊かな海づくり推進協会	https://www.yutakanaumi.jp/
一般社団法人 大日本水産会	https://www.suisankai.or.jp
一般財団法人 東京水産振興会	https://www.suisan-shinkou.or.jp/
公益社団法人 日本水産資源保護協会	https://www.fish-jfrca.jp/
一般社団法人 マリノフォーラム21	https://www.mf21.or.jp
事 務 局	(一社)全国水産技術協会

(令和6年11月7日現在、五十音順)